

市民が考える脳死・臓器移植

— 専門家との対話を通じて —

□ □ 市民参加者募集 □ □

合言葉は

私 素人 話したい!!
は だから

主役は皆さんです。

まず専門家から情報提供を受け、
さらに専門家と対話します。

その上で皆さんだけで議論し、
その成果を社会に発信します。

**皆さんの活動を私たちが支援します。
参加に特別な知識はいりません。**

**あなたも市民として、
この問題を考えてみませんか。**

- **日時** 2005 年 1 月 29 日(土)・2 月 5 日(土)・26 日(土)・3 月 5 日(土)
いずれも午前 10 時～午後 5 時
- **会場** 日本教育会館 (1 月 29 日、2 月 26 日、3 月 5 日)
[地下鉄神保町駅・竹橋駅・九段下駅から徒歩 5～7 分]
科学技術館 (2 月 5 日)
[地下鉄竹橋駅・九段下駅から徒歩 7 分]
- **主催** 市民参加研究会(代表・若松征男 東京電機大学理工学部教授)
(笹川平和財団助成「科学技術への市民参加型手法の開発研究プロジェクト」)
- **応募資格** ○ 脳死・臓器移植問題に興味・関心のある 18 歳以上の方
○ 全 4 回の日程すべてに日帰りで参加できる方
※特定の意見を主張するための参加はご遠慮ください
- **応募締切** 2005 年 1 月 7 日(金)
付属の応募申込書に必要事項をご記入の上お申し込みください

市民が考える脳死・臓器移植

—専門家との対話を通じて—

市民パネル（議論への参加者）15 人を募集します

日時 2005 年 1 月 29 日（土）・2 月 5 日（土）・26 日（土）・3 月 5 日（土）

いずれも午前 10 時～午後 5 時

会場 日本教育会館（1 月 29 日、2 月 26 日、3 月 5 日）・科学技術館（2 月 5 日）

長年の激論のすえ、脳死者からの臓器移植を可能にする「臓器移植法」が制定・施行されてから、すでに 7 年がたちました。日本国内では、これまでに 31 人の脳死者から臓器提供がなされ、心臓や肺など、計 121 件の移植手術が行われました（2004 年 11 月 21 日現在）。

いま脳死者からの臓器移植をさらに促進することを目指して、臓器摘出の条件をゆるめる法改正が議論されています。たとえば、生前に臓器提供を拒否する意思を示しておかないかぎり、家族の承諾のみで脳死からの臓器摘出が可能になるシステムや、臓器摘出の可能年齢を 15 歳未満の子どもにも拡大する制度改正などが提案されており、2005 年には、国会で本格的な改正論議が始まる可能性もあります。その一方で、本人の意思表示なしの移植や子どもからの臓器摘出といった案だけでなく、脳死者からの臓器移植そのものにも、根強い反対意見があります。

この問題を、私たちはどのように考えればよいのでしょうか？ これまでも様々な議論がなされてきた脳死・臓器移植をめぐって、いま何が本当の課題であり、今後、私たちの社会はどのような決断を下すべきなのでしょう？

「市民が考える脳死・臓器移植」では、こうした問題を、2005 年 1 月から 3 月まで 4 回の土曜日を使って、15 人の市民パネルがじっくり考え、話し合います。医師や法律家など、関連分野の専門家との対話をつうじて問題への理解を深め、意見交換をし、最終日には市民パネルみずからが議論の成果を社会に向けて発信します。

あなたも、脳死・臓器移植を考える市民パネルになりませんか？ 特別な知識はいりません。この問題に興味・関心があり、2005 年 1 月から 3 月の 4 回の日程すべてに参加できる 18 歳以上の方なら、どなたでもご応募いただけます。

※このイベントは科学技術政策に市民が参加する方法を研究するプロジェクトの一環として、主催者が新たに開発した会議手法を試行する社会実験であり、特定の立場・主張に立つものではありません。

市民パネルにやっていただきたいこと

脳死・臓器移植問題について、学習・議論し、協力して
「市民の提案」＝「いま社会として何をどう考えるべきか」
をまとめていただくこと

選考 市民パネルが、できるだけ多様な立場の方々によって構成されるよう、主催者が性別・年代等のバランスを考慮して選考いたします。

謝礼など 市民参加者には、謝礼（全 4 回の出席に対して 2 万円）と、ご自宅から会場までの往復交通費（実費）をお支払いします。また、当日の昼食は主催者が用意します。

応募締切 2005 年 1 月 7 日(金)

応募申込書に必要事項をご記入のうえ、郵送（当日消印有効）・FAX・Eメールのいずれかでお申し込みください。選考結果は、1 月 17 日（月）頃、応募者全員にご連絡します。申込書は、下記のホームページからダウンロードできます。

応募・問合わせ先

〒350-0394

埼玉県比企郡鳩山町石坂 東京電機大学理工学部

若松研究室内 「市民参加研究会」事務局

FAX 049-296-5132

E-mail obo@panel.i.dendai.ac.jp

ホームページ <http://www.i.dendai.ac.jp/~wakamats/home.html>

主催 市民参加研究会(代表・若松征男 東京電機大学理工学部教授)

(笹川平和財団助成「科学技術への市民参加型手法の開発研究プロジェクト」)

□ 市民参加研究会とは？

イベントを主催する市民参加研究会は、科学技術についての政策形成・決定に市民が参加するための方法を、助成を受けて研究する研究者集団です。代表の若松らは、1997 年から、遺伝子組換え作物や情報技術、環境政策など、科学技術をめぐる政策形成・決定に市民が参加するための方法を研究してきました。

□ 手法＝「ディープ・ダイアログ」（深い対話）（仮称）について

今回のイベントでは、ヨーロッパ生まれの「コンセンサス会議」をベースに主催者が新たに開発した手法を用います。市民パネルは、関連する分野の専門家から基本的な情報提供を受け、問題への理解を深めます。そして、市民から専門家に対して疑問点や不安な点などを質問として投げかけたうえで、専門家との対話、市民パネル同士の議論を深めていきます。そして最終的に、市民パネルとしての議論の成果を「市民の提案」としてまとめ、社会に向けて発信します。

□ 日程（いずれも午前 10 時～午後 5 時）

第 1 回 1 月 29 日(土)

専門家から情報提供を受け、課題を考えるための基礎知識を学びます。

第 2 回 2 月 5 日(土)

市民パネルだけで課題を考え直し、「専門家への質問」をまとめます。

第 3 回 2 月 26 日(土)

「専門家への質問」へ専門家から回答してもらい、専門家との対話を行います。

第 4 回 3 月 5 日(土)

それまでの 3 日間で得た情報をもとに、市民パネルだけで議論をし、市民の提案＝「いま社会として何をどう考えるべきか」をまとめ、その内容を記者発表します。

※ なお、以上の 4 日間に加えて、2005 年 4 月 23 日(土)に成果発表のための公開シンポジウムを開催する予定です。

市民が考える脳死・臓器移植—専門家との対話を通じて—

応募申込書（※コピーしてご使用ください）

ご記入日 年 月 日

ふりがな

氏名

年齢

性別

住所

〒

電話番号

—

—

※携帯電話でも可

E-mail

職業

※差し支えない範囲でご記入ください

応募された動機などをお書きください（※必要な場合は裏面にお書きください）